

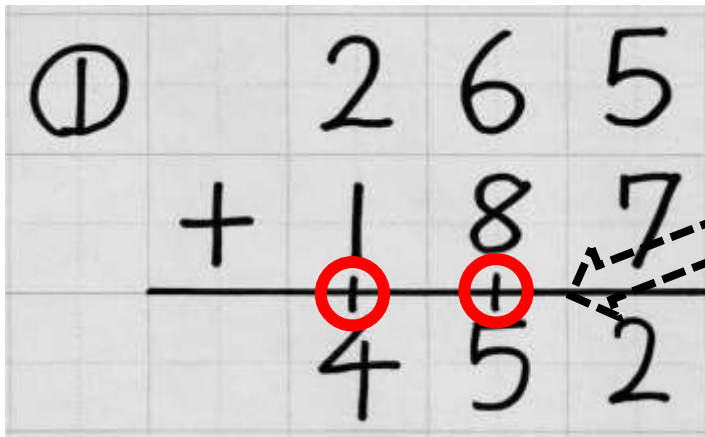
国府津小学校では、毎年、全職員でよりよい学習指導、より分かりやすい学習指導のために研究をしています。今回は、昨年度の研究で確認した「ミスが少ない筆算の仕方」をお知らせします。

【研究のスタート地点】

①筆算における「くり上がり」「くり下がり」の書き方が、学年やクラスによって統一されていないから、子どもたちが混乱しているのではないか。書き方をある程度統一した方が、担任が変わっても、子どもたちはスムーズに学習できるのではないか。

②ある程度統一する以上は、ミスが少ない書き方、算数が苦手な児童にとっても、なるべくわかりやすい書き方を考える。(ただし、今まで身に付けた方法の方が、取り組みやすい児童は、その方法でもよい)

【ミスの少ない筆算～たし算～】



【ポイント】

くりあがる場合は、左の図のところに

くり上がりの“1”を書く。

※マスの真ん中にそろえて書く。

ここに書く理由を、上に書く場合と、下に書く場合を比べて説明します。

【上に書く場合の十の位の計算】

まず、上に書いたくり上がりの“1”とたされる数(筆算の上に書いてある数)の“6”をたして、「1+6=7」という計算をします。

次に、計算した“7”を頭の中で思い出し、思い浮かべながら(目には見えない)、たす数(筆算の下に書いてある数)の“8”と、たし算をして「7+8=15」という計算をします。

<注目ポイント>

目に見えない数の“7”を思い浮かべながら、8という大きな数、くり上がりのある計算を頭の中でする。

【下に書く場合の十の位の計算】

まず、目に見えている、たされる数(筆算の上に書いてある数)の“6”と、たす数(筆算の下に書いてある数)の“8”をたして、「6+8=14」という計算をします。

次に、計算した“14”を頭の中で思い出し、思い浮かべながら(目には見えない)、一番下に書かれている、くり上がりの“1”と、たし算をして「14+1=15」という計算をします。

<注目ポイント>

目に見えない数の“14”を思い浮かべながら、1という小さな数、くり上がりのない計算を頭の中でする。

さて、くり上がりの“1”を上にも書いても、下にも書いても同じような気もしますが、計算が苦手な児童にとっては、頭の中で目に見えない数を思い浮かべると同時に、それに大きな数をたす、さらにくり上がりがあるというのは、とても難しい計算です。

一方で、「6+8=14」という計算もくり上がりのある難しい計算ですが、6も8も目に見えているので、頭の中では計算をするだけです。また、14という大きな数を頭の中で思い浮かべての計算が必要ですが、頭の中でする計算は1をたすだけの簡単な計算です。

【ミスの少ない筆算～ひき算】

くり下がりのために書き足したり、書きかえたりする数字は、その位の真上に、マスの半分を使って書きます。

$$\begin{array}{r} \textcircled{2} \quad \quad 2 \quad \boxed{5} \quad \boxed{10} \quad 4 \\ - \quad 1 \quad 2 \quad 8 \\ \hline \quad 1 \quad 3 \quad 6 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{3} \quad \quad \quad \boxed{1} \quad \boxed{9} \quad \boxed{10} \quad 0 \quad 0 \\ - \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad 7 \\ \hline \quad \quad 1 \quad 9 \quad 3 \end{array}$$

【ポイント】情報を書き込みすぎると、かえって混乱します。書くのは、くり下がりのために必要な数字だけにしましょう。

【筆算のミスを防ぐために】(たし算・ひき算・かけ算・わり算の筆算全てで取り組みましょう)

○数字は「1マスに1数字」ずつ、ていねいに書きましょう。

○線を引く時は、定規を使いましょう。

この2つを意識することで、位取りのミス(違う位の数をたしたり、ひいたりするミス)を防ぐことができます。

